



～～感動した言葉～～



濱崎 俊明

2019年9月20日から日本で開催された第9回ラグビーワールドカップ。2015年に続く日本代表の活躍に感動を味わいました。ラグビーを知るきっかけとなったのは今から40年前秩父宮ラグビー場で母校のラグビーを観戦したことから始まります。今回のラグビーワールドカップで初めてベスト8となった日本代表の監督、ジェイミー・ジョセフ氏の言葉にとても感動しましたのでご紹介します。

『誰も我々が勝てると思っていない。誰も接戦になるとすら思っていない。どれだけハードワークをしたかも知らない。どれだけ犠牲を払ったかも知らない。君たちは我々が準備出来ているのは分かっている。私も君たちが準備出来ているのを知っている。』

私のつぶやき

～～離れていても繋がれる時代～～



中島 大吾

いま日本中がコロナウィルス対策で、外出制限されています。我が家でも子供たちは学校が休校になり、家でおとなしくしていました。私は今回の自宅待機中の子供たちの行動に驚かされました。映画を見るためには、レンタルビデオ店に行かなくとも、ネット経由で見たり、お互いが自宅に居ながらネット経由で会話し、テレビゲームを楽しんでいました。これからは場所が離れていてもコミュニケーションが取れる時代になると実感しました。



4～6月の税務・お知らせ

- ・申告所得税の口座振替日 … 5/15(金) 消費税の口座振替日 … 5/19(火)
- ※ 新型コロナウイルスの影響に配慮し、口座振替日が延期されています。
- ・源泉所得税の特例納付、社会保険の算定基礎届のご準備を！



お休みカレンダー

2020年 4月							2020年 5月							2020年 6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4						1	2		1	2	3	4	5	6
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
26	27	28	29	30			24 31	25	26	27	28	29	30	28	29	30				

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！
※ 過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vol. 44

2020年4月



今年の冬は暖かかった
ので、例年よりも早めに桜
が咲き始めました
(^^)



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL(0856)23-6116 FAX(0856)23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP http://annokaikei.com

こんにちは、安野広明です。
いつもニュースレター「かけはし」をお受け取りいただき、ありがとうございます。

ご承知の通り、新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活はもとより、中小企業の業績に多大な影響が生じています。
経営者の皆様におかれましては、先の見えない不安に、ご心配のことと拝察いたします。
こういった緊急事態において不可欠なのは、一にも二にも「資金（＝お金）」です。影響のありそうなお客様には、3月初旬に個別にご案内（郵送&電話）差し上げ、「悲観的に今後半年間のシミュレーションをして、資金が足りなければ、早めの資金調達を！」とアナウンスいたしました。何社かのお客様には、既に資金手当を行っていただいています。

私自身、今回の対応を通じて、財務体質を強化することの重要性を再認識いたしました。

「企業が生き残れるかどうかは、売上や利益ではなく、財務で決まる」といっても過言ではありません。弊社には、未来の財務体質を作っていくためのツールとして、「あんの式月次決算書」という商品もございますので、今後は、中小企業の財務体質改善にも力を入れて参ります。お困りごとがあれば、なんなりとご相談下さいませ。

何はともあれ、一日も早い事態の終息を祈念しております。この危機を、共に乗り越え、さらなる飛躍につなげましょう！

それでは2020年春号も、どうぞよろしくお願い致します！！

「社員教育で着目すべきは、“思考”ではなく“行動”」

誰の言葉か忘れましたが、「思考が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。人格が変われば、運命が変わる。運命が変われば、人生が変わる。」と聞いたことがあります。人の変化変容のプロセスを、とても分かりやすく表現した言葉だと思います。ただし、実際には、最初の、「思考」と「行動」との間に断絶があって、そこを乗り越えない限り、次のプロセスへは進めません。言い換えると、いくら本やセミナーや研修で学びや気づきが得られても、また、意識が変わったとしても、「行動」を変えない人は、（人生が）何も変わらないということ。この事実、私自身、10年近く経営に携わり、数多くの人を見てきた中で、確信を持って言えます。もしかすると、そういう（＝断絶を超えられない）人は、多くの場合、プライドや自尊心が邪魔をするのかもしれない。

そしてこれを、「社員教育」という視点から捉えると、いくらその人が、（表面的に）立派な発言をしたり、前向きな感想を述べたとしても、あくまで着目すべきは、「行動」が変わったかどうかです。

例えば、弊社では、毎月の社員面談の中で、「個人目標に対して実践したこと」を報告してもらうのですが、そうやって定点観測（＝チェック）をすると、「行動」の変化と、その人の成長とが紐付いてくるのが、よく分かります。

また、「行動」がボトルネックになるが故に、社員教育の中で、「行動」を強制しなければならない場面もあるでしょう。それは例えば、朝礼だったり、挨拶だったり、掃除だったり。ちなみに弊社では、「親孝行」（親孝行月間）や「家族への感謝」（家族感謝月間）まで、会社で強制しています（笑）。

でも、そうやって「行動」するからこそ、いままでにはない気づきが得られ、「行動」を継続するからこそ、習慣に変わり、結果として人間的に成長し、人生が変わっていくのです。

・・何はともあれ、「行動」を変えない限り、その先のプロセスには進めません。むしろ、「思考」と「行動」の断絶を超えることなくお勉強ばかりしていると、単なる頭でっかちや評論家になってしまいます。もしも、本気で現状を変えたいのならば、「過去と比べて、今の自分はどのように行動が変わったか？」そして、「今後、どのように行動を変えていくのか？」を、具体的に考え、行動に移すことが大切ではないでしょうか。

少なくとも私は、これからも、「思考」よりも「行動」に着目していくつもりです。



代表取締役
安野 広明

去る1月14日（火）、益田商工会議所青年部主催の「益田発！ビジネスプランコンテスト」にて、弊社代表の安野が、第2回ブラッシュアップ研修会の講師をつとめました。3名の応募者のプランにも触れながら、「収支計画策定」の肝となる考え方についてお伝えしました。



3名の応募者は、いずれも女性でした。



オブザーバーの皆さんも、真剣です。

セミナー紹介

去る1月29日（水）、大田商工会議所にて、弊社代表の安野が、「経営に生かすための経営計画書作成」というテーマでセミナー講師をつとめました。経営計画書について、2時間、熱く語り、アンケートでは高評価をいただくことができました。



本の紹介

どんな男になんねん
島内秀晃

『どんな男になんねん』

著者：島内秀晃

私が、入学したくて大学受験をし、2連敗した憧れの大学で、昔の青春時代を彷彿させる本でした。東の「慶應」、西の「関学」と当時は言われ、「アメリカンフットボール」だけは、やたらと「強い」イメージがありました。その中で、監督として100人を超える部員をまとめ、常勝軍団を作り上げてきた「島内」さんならではの「学生」に対する指導方法が、時代とともに変化しているのを垣間見ることができます。会社の組織人として是非一読を！



石川 秀樹

「人生を肯定的に過ごしたいなら、“感謝のサンドイッチ”がおすすめ」



例えば、起床した時に、「あ～今日も仕事か、だるいな～」と朝から不機嫌になり、一日が終わって就寝する時は、「あ～、今日も辛かった～」と思いながら眠りにつく人がいたとします。他方で、朝は、「よし、今日も元気に起きれてありがたい。一日、頑張ろう!」、また夜は、「今日も色々あったけど、(経験が積めて) いい一日だった。ありがたいな～」と感謝して床につく人がいるとします。それが毎日続くとすれば、どちらの方が、肯定的に人生を送れるでしょうか？

仮に、一日をオセロゲームのように考えると、前者は、あたかも、黒と黒で一日を挟むようなもの。いくら日中にいいことがあったとしても、その一日は真っ黒で、否定的になります。これに対して、後者は、白と白で一日を挟むようなものですので、もしも日中に嫌なことや辛いことがあっても、その日を肯定できるはずです。

そして私は、起床時と就寝時に感謝し、白(＝感謝)と白(＝感謝)とで一日を挟むことを、「感謝のサンドイッチ」と呼んでいます(笑)。何気ない習慣ではありますが、長い目で見れば、けっこう大切なことなのかなと。

そんなふうに考えていると、ある本の中に、こんな実験結果が紹介されていました。

「まず被験者を2つのグループに分けます。そして、一方のグループには毎日眠る前に感謝したことを5つ書かせ、もう一方のグループは何もさせませんでした。これを追跡調査した結果、どうなったかというと、感謝を5つ書いたグループは人生をより肯定的に評価できるようになり、幸福感が高くなってポジティブな気分を味わえるようになりました。さらに、よく眠れるようになり、より多く運動をするようになり、身体的な不調も減りました。他方、何もしなかったグループには、何の変化も見られませんでした。」

客観的なデータから見ても、やはり、感謝には効用がありそうです。もしも人生を肯定的に過ごしたいなら、「感謝のサンドイッチ」といった、些細なことから始めてみるのもよいかもしれません。

「“覚悟”とは、“何が起きても向き合っていく”と心に決めること」



基本的に人は、変化を嫌い、「平穩無事に何も起こらないこと」を願うものです。したがって、もしも仕事で、不測の事態やネガティブな出来事に直面すれば、「あ～、やばいやばい」、「これは大変だ～」と気が焦ります。その結果、心が乱れたり、一日中その事に囚われたりして、仕事に身が入らず、成果も出ないなんて経験は、誰にでもあるのではないのでしょうか。かくいう私自身、経営者になりたての頃は、「もうこれ以上、何も起こらないで～」と、ビクビクしながら仕事をしていた記憶があります(笑)。そして、何かが起きる度に、また焦って、気持ちが沈む・・・という感じでした。

ただ、それなりに年数を重ねてきて、よく分かったのは、経営をしていて、平穩無事に何も起こらない日はないということ。もし仮に、自社内では何もトラブルがなかったとしても、お客様の会社の中で、様々な課題が発生している可能性もある訳で、そこまで含めて考えると、「何も起こらない」なんてあり得ないのです。したがって、大事なのは、毎日、何かしら起こる前提で、心構えをしておくこと、さらに言えば、何が起きても向き合っていくと心に決めることだと思います。

何が起きるか分からないけれど、何かしら起こるのは間違いないのだから、そこから目を背けずに、向き合う。これは、経営者やリーダーとして、「覚悟を持つ」ということかもしれません。

私も、経験を積み重ねてきたお陰で、だいぶ、覚悟が定まってきたのか、最近は、日々、何が起きても、一瞬、悩んだり凹んだりすることはあれど、昔ほどは動じなくなりました。むしろ、「あ～、きたきた」と、客観的に見れたり、「この課題には、どう対処するのがベストだろうか？」と頭を切り替えることができるようになった気がします。自分で言うのもなんですが、この点に関しては、経営者として、多少は成長できているのかなと。とはいえ、いまだに、「何も起きず平穩無事なのが一番」だと思ってしまう自分がいるのも事実ですけど・・・(汗)。

仕事をする上で、変化やトラブルは避けて通れません。「何も起きないで～」とビクビクするのではなく、「何が起きても向き合っていく」と、心に決めてみてはいかがでしょう。それが「覚悟」なのだと思います。

「“幸福度”と“生産性”はつながっている!？」

米ギャラップ社が世界各国の企業を対象に実施した従業員のエンゲージメント（仕事への熱意度）調査によると、日本は「熱意あふれる社員」の割合が6%で、調査した139ヵ国中132位と最下位クラス。さらに、企業内に諸問題を生む「周囲に不満をまき散らしている無気力な社員」は24%、「やる気のない社員」は70%に達したそうです。つまり、仕事に対する熱意が、世界最低レベルだということ。これでは、日本の労働生産性が先進国で最下位と言われても、仕方ありません。

したがって、マネジメントにおいては、社員のやる気を高めることが課題になってきそうですが・・では、どうすればよいのか？この点、JAL再建時に稲盛和夫氏の側近中の側近として3万2千名の意識改革を断行した大田嘉仁氏は、「社員の幸福を心から願うこと」だとおっしゃっています。確かに、賃金体系の見直しやインセンティブによるモチベーションは、一時的ですし、何より、そもそも物欲の少ない1980～2000年頃に生まれたミレニアル世代の若者には、あまり響かないのかもしれませんが、やはり、長期的なモチベーションアップのためには、（きれいごとには聞こえるとは思いますが 汗）、もっと本質的な、「社員の幸せ」という側面に目を向ける必要があるのでしょう。ちなみに、米国カリフォルニア大学の研究発表によると、幸せだと感じている社員の創造性は、そうでない社員の3倍、生産性は31%高いのだとか。客観的データからしても、幸福度と生産性とは結びつきそうですね。まあ、日本の場合、幸福度においても世界58位で、先進国の中で最低レベルみたいですけど・・。

ということで、まずもって、経営者やリーダーは、「一緒に幸せを目指そう!」と宣言する（できれば経営理念等に掲げる）と同時に、社員1人1人を思いやることで、お互いに助け合う企業文化を目指す必要があるのではないのでしょうか。

結果として、そういった取組みが、幸福度の向上と共に、生産性アップにもつながるはずです。

「“聴く”は、“話す”以上に奥深い」

世の中には、「話し方教室」はありますが、「聴き方教室」はありません。また、「セールストーク」の本はありますが、「セールスヒアリング」の本はありません。おそらく、それだけ、話の「聴き方」については人々の意識が向かないのでしょう。しかし、私は、この、盲点とも言える「聴き方」にこそ、その人の人間性が現れると思っています。

話が上手い人はごまんといいますが、自分の喋りたいことを喋って、いざ、こちらの話を聴く段になると、「あ～、はいはい」みたいな素っ気ない態度を取られたり、軽くあしらわれて、残念な気持ちになった経験は誰にでもあるでしょう。私も、そのような独りよがりな態度をたくさん目の当たりにしてきましたし、そういう人とは、あまり深く付き合わないようになってきました。逆に言うと、もしも自分が、無意識に同じような態度を取っているとすれば、周りに人が寄り付かなくなっている(!)ことを意味するのですが・・（汗）。

私が尊敬する一流の方々は、どんな人の話であっても、温かい目で真剣に聴いて下さいます。本当に、器が大きいというか、心が広いというか・・。そんな姿を拝見するにつけ、「聴く力」と「人間力」とは紐付いていることがよく分かりました。素直に相手を受け入れようという謙虚さや、目の前の人に喜んでもらおうという貢献心が無ければ、じっくり話を聴くことはできないからです。

「聴く」は、「話す」以上に奥深く、そこに人間的魅力が詰まっているのだと思います。

よく、「話し3分に聴き7分」と言いますが、未熟な私は、これからも、「聴く」ことを通じて人間性を磨いていくつもり。聴く時の姿勢はもちろん、相手の話に意識を集中させる（＝うわの空で聴かない）よう、実践して参ります！何かのご参考までに。

<安野からのおすすめコーナー>

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただけると幸いです！

映画「コンタクト」(主演 ジョディ・フォスター 監督 ロバート・ゼメキス)

電波天文学者エリナー・エリー・アロウェイ博士は、幼い頃からある答えを求めて続けてきた。「なぜ、我々はこのにいるのか？我々はいったい何者なのか？」やがて、そんな彼女の願いが本当に天に届いたかのように、そのメッセージは宇宙から送られてきた。科学者として、女性として、人間として、エリーはたった1人でそのメッセージに答える決心をする・・。大宇宙を舞台に、人間の存在について考える、人間のための物語。原作はカール・セーガンのベストセラー小説。壮大なストーリーに引き込まれること間違いなしの1本です！